

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：十勝地区
- 2 事例報告学校名：足寄町立足寄小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 大宮 秀夫
- 4 キーワード：地域と歩む持続可能な教育活動

1 はじめに

足寄町(あしよろちょう)は、十勝地方の東北部に位置する自然豊かな町で、広大な森林と美しい湖が広がり、特に、オンネトー湖は透明度が高く、季節ごとに色が変わることで有名で、観光で訪れる人も多い。林業や放牧酪農、ラワンぶき栽培や歌手の松山千春の出身地としても知られ、彼の記念館や動物化石博物館、ネイパル足寄などの施設があり、自然と文化が融合した魅力的な町である。

本校の児童数は216名で通常学級8学級、特別支援学級4学級合計12学級である。学校経営方針に「地域と歩む持続可能な教育の実現」を掲げ、地域と学校がウィン・ウィンの関係で協働し、学校教育を通して、より良い地域づくりに貢献できることを念頭に置きながら教育活動を進めている。以下、本校の特色ある教育活動を紹介する。

2 地域の施設と連携した教育活動

町内には、「九州大学演習林」「十勝東部森林管理署」「足寄動物化石博物館」「道立体験活動支援施設ネイパル足寄」などの施設がある。本校では、それらの施設と連携した教育活動を進めてきた。コロナ禍で一時中断を余儀なくされた活動もあったが、現在では検証改善を進め、一層の充実を図った効果的な教育活動として定着してきている。

(1) 森林学習(九州大学・森林管理署との連携)

九州大学演習林があり、また、林業が盛んな足寄町では、町内小学校5年生、中学校1年生、高校1年生において、九州大学と森林管理署と連携し、①森林の管理②木材の利用の2点について学習している。その際、小中高が連携し、カリキュラム調整を図るなど小中高のつながりを意識して学習を進めている。



(2) 地層学習(動物化石博物館との連携)

6年生理科の地層の学習で、動物化石博物館の学芸員の方に前出授業を依頼し実施している。地層が広がる螺湾(らわん)地域の河川で、化石の発掘体験をするなど、子どもたちの好奇心や探究心をかき立てる授業となっている。



(3) 防災教室(ネイパル足寄との連携)

ネイパル足寄が校区内にあることを生かし、学校運営協議会の委員として、所長に入っただき、宿泊学習や防災教室など小学校に協力いただく場面や、ネイパル足寄の事業に児童が参加するなど連携した取組を進めている。防災教室では、6年生に出前授業を実施、休み時間には全校児童を対象に、防災グッズの説明など行っている。



3 地域の環境や人材を生かした「ふるさと学習」の実施

体験的な活動を通してふるさと足寄の良さを知り、視野を広げ、故郷に誇りと愛着をもたせ、故郷に生きる意欲を喚起することを目標として以下の学習を進めている。

(1) ラワンぶき青空教室(鳥羽農場)

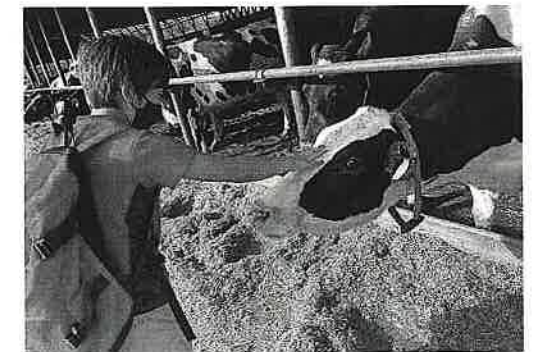
足寄町の特産物「ラワンぶき」は、背丈より大きくなるのが特徴で、味もよく全国各地に出荷されている。2年生が生産農家を訪れ、栽培の苦労や工夫の講話や観察・スケッチ、また、匂を味わう体験もさせていただく。ゆでた新鮮なラワンぶきを酢味噌で味わった子どもたちのおいしそうなおい表情が印象的である。



(2) 農業体験学習(宮口農場・荻原農場)

農業が盛んな足寄町で、学校農園活動の他にも、畑作や酪農などの農家の方に依頼し、農業体験学習を実施している。芋ほり体験や牛と触れ合う体験など、3・4年生を対象に行っている。

また、今年度は、肉牛組合の方から給食にハンバーグの提供を受け、食育の特別授業も実施している。



(3) 足寄まちたんけん(足寄町商店街他)

2年生の生活科にて、道の駅・銀行・コンビニ・パン屋・役場・図書館・こども園・自動車修理工場などの町内施設にグループ毎に分かれて訪問し、説明や体験をする学習を行っている。

学校運営協議会委員の方に情報をいただき、学校の教育活動に温かく協力していただける施設が増えている。



(4) アイヌ文化の学習(公益財団法人アイヌ民族文化財団)

町内には、「オンネトー湖」のように、アイヌ語を語源とする地名がたくさんある。アイヌ民族文化財団の紹介により出前授業を行っていただき、アイヌ文化の説明や歌・踊り・楽器・アイヌ模様づくり体験など、実施学年の要望に合わせた授業をしてくださっている。



4 おわりに

足寄町は、子育てサポートが充実しており、給食費無償化や医療費助成、保育ママやママサポート、6年生まで受入れ可能な学童保育など、早くから「子育てにやさしい町づくり」を進めてきた。そのような風土もあり、地域の学校教育に対する温かな見方が根付いているように思える。

校長として、持続可能でさらにウィン・ウィンの関係を意識しながら、地域と連携、協働し、検証改善を繰り返しながら教育環境を整えていく。また、地域と連携した体験的な学びは、子どもたちの心を耕し、学力向上にも複数のエビデンスが認められるということを学校運営協議会で共有し、地域と歩む持続可能な教育の実現を目指していく。